

# 度

三年

回数 9  
筆順 广 户 声 度  
オン ド・ト・タク  
クン たび

成り立ち



むかしは、みじかい長さをはかるときに「手」をつかいました。親ゆびをゆかにつけて、他のゆびをいっばいにひろげたとき、親ゆびから中ゆびまでの長さを「尺（わが国では呉音でシヤクといいます）」といいました。この「尺」のいみの「声（セキ）（席）」と、「手」のいみの「又」とを組み合わせて作った字で、「手を尺とり虫のようにつかって長さを「はかる」こと」をあらわした字です。「はかる」といういみの字です。

このとき、「一度、二度、三度……」といっではかりましたので、「回数」や「ほどあい」のいみにつかわれるようになりました。

また、尺は長さのきじゆんなので、「きじゆん」といういみにつかわれます。

使い方

▽ぼくは、京都へ一度、行ったことがあります。かも川のおちで、みんなでおべんとうを食べたことを、おぼえています。もう一度、京都へ行ってみたいと思います。

▽ぼくのおとうさんは、月に一度、とこやさんに行きます。ぼくは、とこやさんは、きらいなので、一年に二度か三度くらいしか、行きません。あまりかみがのびると、おかあさんが、すそをかつてくれます。

熟語例

▽度数（カイズウ）「おとうさんのばんしやくの度数が、このごろ、へってきた」などというふうには、つかいません。

▽程度（テイド）「ちようどいい程度に、おゆがわいたから、早くおふるに入りなさい」などというふうには、つかいません。

▽制度（セイド）「社会生活をして行く上のきまりやきじゆん」「社会をうまく成り立たせる上には、いろいろの制度がひつようです」などというふうには、つかいません。

▽度量衡（ドリコウコウ）「長さ」と、量と、重さ。また、それをはかるど（うぐ）。

使い方

▽あの人（ひと）は輪投げ（りんなげ）がうまいわけです。野球（やきゅう）で投手（ていしゅ）をしてるんですから。

▽あの投手（ていしゅ）は暴投（ぼうとう）を二どほどしましたが、失投（しつとう）がなかったので完投（かんとう）することができました。

熟語例

▽投手（ていしゅ）（「投げ手」といういみのことば。野球（やきゅう）で、あい手にボール（ぼーる）を投（な）げるやくめをもった選手（せんしゅ））

▽暴投（ぼうとう）（捕手（か）にとでもとれないようなボール（ぼーる）を投（な）げること。と。「乱暴（らんぼう）な投球（とうきゅう）」といういみのことばです。）

▽投球（とうきゅう）（球（きゅう）はボール（ぼーる）のこと。ボール（ぼーる）を投（な）げること。）

▽失投（しつとう）（失（しつ）は失敗（しつぱい）のいみ。「投げ（な）そこない」ということで、投手（ていしゅ）があい手に打ち（うち）ごろのボール（ぼーる）を投（な）げて打（う）たれることをいいます。）

▽完投（かんとう）（しあいが完了（りょうぎ）「おわること」するまで、一人（ひとり）の投手（ていしゅ）が投（な）げることばをいいます。）

▽投降（とうたう）（ぶきを投（な）げすてて降参（かうさん）すること。）

▽投票（とうひょう）（せんきよの票（ひょう）を投票箱（とうひょうば）に入れることをいいます。「票（ひょう）を投（な）ずる」ともいいますが「箱（ば）に投（な）入（い）する」といういみです。）

# 投

三年

回数 7  
筆順 一 十 扌 扌 投  
オン トウ  
クン なりげる

成り立ち



手にもって、きになげつけるぶきの形（かたち）をあらわした「殳（しゆ）がぶきの形（かたち）で、又は手の形（かたち）」に、手の形（かたち）をあらわした「扌（てい）」をくわえて、「なげぶきを「なげる」といういみをあらわした字です。

「ものを「なげる」といういみにつかいます。

「投（な）は「しゆりけん」で、ひとを殺（ころ）すぶきですから、「殺（ころ）す」という字にもつかわれています。